

開成町議会第20回新庁舎に関する調査特別委員会会議録

平成30年4月12日（木曜日）

○議題

平成30年4月12日（木） 午前9時30分開議

（１）議会機能について

（２）その他

○出席委員（11名）

委員長 吉田敏郎

副委員長 前田せつよ

委員 佐々木昇

委員 山田貴弘

委員 湯川洋治

委員 石田史行

委員 菊川敬人

委員 下山千津子

委員 和田繁雄

委員 井上三史

委員 星野洋一

（議長 茅沼隆文）

○議会事務局

議会事務局長 小宮好徳 書

記 指 宿 卓 哉

○委員長（吉田敏郎）

それでは、第20回の新庁舎に関する調査特別委員会を始めたいと思います。

午前9時30分 開議

○委員長（吉田敏郎）

今日、議長挨拶の前に初めに傍聴として、財務課の柏木主幹が説明員としてではなく傍聴者として来ていますので、質問は受けるということではできませんのでお願いします。

では、議長挨拶の前に、小宮議会事務局長から、初めての新庁舎に関する調査特別委員会ですので、挨拶をお願いします。

○議会事務局長（小宮好徳）

皆様、おはようございます。4月1日に議会事務局長という職を拝命させていただきました。小宮と申します。よろしくお願いいたします。今後、皆様に多々御協力いただくことはたくさんあると思います。その節は、今後、よろしくお願いいたします。

○委員長（吉田敏郎）

それでは、議長より、御挨拶をお願いいたします。

○議長（茅沼隆文）

改めておはようございます。

もう既に20回に、今日を新庁舎に関する調査特別委員会ということですので、前回も申しあげたのですが、いよいよ大詰めになってきているということで、最後の詰め、しっかりとお願いしたいと思います。

それからまた、スギの花粉が終わったと思ったら、今、ヒノキの花粉とかで、なんかえらい花粉がはやっているようなので、皆様、お気をつけいただきたいと思います。これから5月のゴールデンウィークに入ろうというときに、いろいろ行事も入りますし、また、花粉の件で、いろいろ体調を崩される方が多いと聞いています。ぜひ、体調の管理をしっかりしていただきたいと思います。

それから、1件、皆様に御報告というか、お願いがあります。今月24日、火曜日だと思います。緊急に随時会議を開催する予定ですので、スケジュールをとっておいでいただきたいと思います。開始時間は、9時からです。事前に、正・副議会運営委員会委員長にお願いしまして、議会運営委員会を、その当日の8時半から開催するというので、正・副議会運営委員会委員長からの御了解もいただいていますので、その件も御承知おきいただきたいと思います。

なお、この随時会議に議案については、副町長人事案件、それから教育委員会委員の人事案件1件、それから、専決処分の件数はちょっと私のはっきり聞いていませんが、2件だったかと思います。

そのようなことで、細かい内容についてはまだ、行政からの通達はまだ発せられていないので、細かいところは、また後程ということになります。

それから、20日の日に全員協議会開催しますけれども、20日に議案書を配付していただきたいということで、こちらから申し入れしていますので、20日に配付さ

れるだろうと、まだ確定はしませんが、その予定で動いております。

以上です。よろしくお願いします。

○委員長（吉田敏郎）

ありがとうございました。それでは、早速、議題に入りたいと思いますので、よろしくお願いします。

事前に皆様に、議場設備及び全員協議会設備と、概算見積の資料をメール配付させていただきました。こちら、一読していただいていると思いますので、こちらのことに関して、委員会後の削除、必要、不必要なもの等々、こちらに明記してあります。また、この中で皆さんから御意見等何かありましたら、挙手をもって、発言をお願いしたいと思います。

では、皆さん、今、私から全体を通して何かありますかということを行いましたけれども、こちらで今、A4の資料がありますけれども、こちらの議場設備、基本設備、それから、カメラ設備、こういう枠内で追って進めていくということでよろしいでしょうか。

（「異議なし」という者多数）

○委員長（吉田敏郎）

そういうことにさせていただきます。

それでは、はじめに、議場設備の中の基本設備、タッチパネル操作部から卓上モニターに関して御質問ある方、御意見ある方、挙手をもってお願いしたいと思います。

こちらはこういう形でということで、よろしいでしょうか。

山田委員。

○2番（山田貴弘）

議場設備の基本設備ですよね。この違いというのは、二人で一つのマイクにするか、一人一つずつするかですよね。だから、それを決めれば良いわけですね。

○委員長（吉田敏郎）

ほかにもありますみたいなことを言いましたけれども、そうです。

○2番（山田貴弘）

ですよね。一番重要なところは、そこですよね。

○委員長（吉田敏郎）

そうですね。

菊川委員、どうぞ。

○6番（菊川敬人）

前回のときに、デスクのマイクは一人1本と記憶してあるんですけども。

○委員長（吉田敏郎）

マイクはまだ決まっていなかったと思うんですけど。要するに二人1台にするか、一つの机で1台にするかということで、それで予算の概要の中で。

○書記（指宿卓哉）

マイクと投票スイッチはセットじゃないかという話で、それを別々にできるかとい

う確認は、東和エンジニアリングさん、こちらの1枚ペラで、開成町議会事務局指宿様と書いてあるこの資料を前回配らせていただいたのですけれども、そこの中に、マイクを二人1台にしたときも、投票スイッチは一人1台という、また別にできるという、マイクと投票スイッチがセットじゃないかというお話もあったんですけど、マイクを二人に1本にして、投票スイッチは一人1台、別にすることも可能という回答をいただいて、そこまでは、ちょっとまだ決まっていなかったと思うので、別々にすることは可能ですという回答をいただいて、今のところは終わっていると思います。

○委員長（吉田敏郎）

一応皆さんに、前回、1月26日にお配りしてある、この東和エンジニアリングからのを皆さん目にしていると思いますけれども、そこにある4番目で、マイクを一人1台にした場合、投票スイッチを1人1台用に可能かということで、それは可能ですという回答をもらっていますので、投票スイッチは、机の上に一人1台にすることは可能。ただ、マイクは二人で1台、それから、一人に1台、そういうことを決めていただければと思います。

それで予算も後ろに、一人1台で、トータルで40台の場合は2,800万円かかる。それから、二人1台の場合は、2,500万円、300万円の差あるんですけども、それに対して、二人1台、二人でマイクは1台で良い、それとも一人1台が良い、その辺を皆さんで決めていただきたいのですが、差額としては300万円の差が出ておりますけれども。

石田委員、どうぞ。

○5番（石田史行）

マイクを二人1台で良いんじゃないかと提案したのは、私だったと思うんですけど、その場合に、投票スイッチは一人1台にしなきゃいけないと思うので、それが可能なのかと言ったのも多分、私だと思いますね。可能だということであるならば、マイクを二人1台で、私は十分ではないかなと思います。

○委員長（吉田敏郎）

今、石田委員から、マイクは二人に1台で良いんじゃないかと、投票スイッチは一人ずつつくので、ということなのですから、ほかに御意見ございませんか。

井上委員。

○9番（井上三史）

私も同じ考えをもっておりまして、座席も自動的に変わってくるわけですから、三人一列で並ぶ方法でいくと、3人に2台というマイクなんですね。ところが、座席を二人並びにすれば、マイクは二人に1基ということになるのですね。

ですから、二人ずつ並ぶ座席を支持しながら、マイクも二人で一つと。あと、細かいものは一人ずつの装置になるかと思いますが。そのように、全体の関連的に調整は見込まれているのかというような考えを持っています。

○委員長（吉田敏郎）

ありがとうございます。

今、石田委員、井上委員から、二人で1台でよろしいのではないかという意見が出ました。ほかの意見のある方ございますか。一人のほうが良いよという意見は。

(「なし」という者多数)

○委員長(吉田敏郎)

では、マイクは二人で1台ということで、今使っている形で、自分のときは手前に寄せる。そういう形でよろしいですか。

(「異議なし」という者多数)

○委員長(吉田敏郎)

では、マイクは、二人1台ということで決めさせていただき、ありがとうございます。投票スイッチは、一人1台つきます。

では、最初の基本設備の中で、ほかに御意見ある方いらっしゃいますか。こういう形でいくということでよろしいでしょうか。

石田委員。

○5番(石田史行)

基本設備の中の我々が座っている前の席、質問席ですか。

○委員長(吉田敏郎)

一般質問で立って発言するところですか。

○5番(石田史行)

再質問するときに。そのときの、今もそうなのですが、私、ちょっと上背があるもので、マイクの高さが低いんですよ。非常に猫背で質問をしなきゃいけないので、これはオプションでその人の身長にあわせて、この演壇の席を上下することができるようなものが可能なかどうか。

○委員長(吉田敏郎)

指宿さん、ちょっと良い。言ってくれる。

○書記(指宿卓哉)

実際の長さがあれなんですけれど、3ページところに、ロングマイクrohonというのがあるので、それで長さの調節は可能かなと思うのですけれど。たしかに、石田委員は大分前のめりになられて、体勢的にも厳しいかなというのはあるのですけれども。

○5番(石田史行)

セパレート式になっていて、取り外しが可能ということだね。

○1番(佐々木昇)

私、すごく基本的なこと。再質問はこっちでやるの。

○委員長(吉田敏郎)

演壇で。今までどおりで、一般質問の場合には、そちらでやるということ。

○5番(石田史行)

私もそれちょっと気になるのだけど、最初に、町長部局の前のところでやって、また、やるのか。それとも、最初からこれは。

○委員長(吉田敏郎)

自席で。

○5番（石田史行）

自席じゃなくて、この質問席でやるのか。ちょっとその辺が見えてこないのですけども。

○1番（佐々木昇）

再質問は自席でというところが、結構ありますね。

○委員長（吉田敏郎）

そういうのは後からというのは聞いていない。今、決めちゃったほうが良い。

○5番（石田史行）

要は、これからインターネット中継とか始まるじゃないですか。そうすると、見栄えというのは結構大事で、今は映していないから、前のめりであろうが、どうしようが別に良いんですけど、やはりその辺、配慮していただきたいなと。私のお願いなのですけども。低い方は低い方にあわせてね。

○委員長（吉田敏郎）

それは身長の高い人に対しては先程、指宿さんが言った、ロングマイクロホンというのが、どのくらい対応できるかという。

○5番（石田史行）

だから、東和エンジニアリングさんに、どういう形が良いのか、セパレートのマイクで十分対応が可能なのかどうか確認をお願いします。

○委員長（吉田敏郎）

分かりました。

○議長（茅沼隆文）

今、たまたま石田さんからそういうふうな意見が出たのは、大変重要なところを指摘していると思うんだよね。さっきマイクが二人で1台と決まったようだけれど、これから、新庁舎ができて、議場ができあがってその場で完成でおしまいということになってしまうかもしれないのだけど、1年、2年使っておしまいということじゃないので、これからかなり長い年月で使っていく。そうすると、今、我々はこの議員で、大体背丈が同じくらいの議員がそろっているのだけど、もしかしたら、物すごく背が小さい人が来るかもしれない。逆に今、パラリンピックでも、体に障がいがある人が活躍しているように、体に障がいのある人が議員になってくるかもしれない。そうすると、二人で1台のマイクだと、物理的に不可能な可能性もあるんじゃないかなという気がするんだよね。

だから、基本的には、この近辺で、二人で1台マイクを使っているところが、どこがあるのか分からないのだけれど、基本的には、こういうものは一人一人を用意すべきだろうと思いますし、マイクの長さ、高さ、調整についても、その辺はこれからどういうマイクを入れるかによるけれど、その辺はフレキシブルに可変なマイクにすべきだろう、こんなふうにも思います。

以上。

○委員長（吉田敏郎）

今、議長からそういう意見が出ました。二人1台で決めた後に、そういう意見が出たのですけれども、マイクは二人で1台ということで、今、いろいろ石田委員と議長からも意見が出ましたけれども。

湯川委員。

○3番（湯川洋治）

私は思うのですけれど、当初、6,000万円であったものが削除して、4,500万円、4,200万円という数字が出ていますのですけれど、ある意味、これが高いのか、安いのか、よく分からないのですけれど、今、議長が言われたようにいわゆる想定をして、どんどんいくと、みんなつねなくちゃいけなくなると思うのですよね。

だから、私はお金のことは余り言いたくないけれども、ある程度抑えていくべきと考えていますので、その辺はちょっと考えてほしい。

テーブルも、石田委員が言われたように、委員が言われたように、ちゃんと自動でぐっと上がるなんていうのが一番良いんだけど、えらい金がかかると言うんですよ。マイクだって、とっかえひっかえやるのか、長く短くできるのかというのがあって、設定もあると思うんだけど、その辺はもう一回考えたほうが良いですね。

○委員長（吉田敏郎）

湯川委員がおっしゃるのは、もう一回考えたほうが良いということ。

○3番（湯川洋治）

要するに、マイクをどうするのかというのは、いろいろ基本的にあると思うんですけど、その辺、ただ、長いのか短いのかではなくて、長く調節できるのか、短くもできるのか、タイプはいろいろあると思うんですよ。そのまま持ってくるんじゃなくて、調整の具合があると思うんです。そういうのが可能かどうかというのを。

○委員長（吉田敏郎）

指宿さん、もう確認できたんですか。

○書記（指宿卓哉）

はい。今ので、これだと長いのだと480、今ので450ぐらい。

○5番（石田史行）

委員長にお願いしたんですけれど業者さんに、その辺、どういう感じになるのか。ビジュアル的に、要するに背筋を伸ばして質問できるようであれば別に良いんですけど、コストのこともあるので、確認。

○委員長（吉田敏郎）

今、指宿さん調べてくれて、現に使っている議場のマイクよりも3センチ程は高いマイクが使えるということなので、フレキシブルに使えるマイクだと思いますので、その辺、身長の高い人でも合うような感じのマイクを設定していただくような形でお願いをしていきたいと思いますけれども。

それで、二人1台というのは委員会の中で決まりましたので、二人で1台ということで、改めてその確認で、それでいきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○委員長（吉田敏郎）

それでは、基本設備はよろしいでしょうか。

（「異議なし」という者多数）

○委員長（吉田敏郎）

では、次の枠の議場設備のカメラ設備について、こちらのほうで御意見ありましたらどうぞ。こちらはこの方向でよろしいですか。御意見ございませんか。

それでは、こちらのカメラ設備は、この形で進めたいと思いますので、よろしいでしょうか。

（「異議なし」という者多数）

○委員長（吉田敏郎）

ありがとうございました。

続きまして、三つ目の卓上機能の中の議場設備、電子採決設備の中で御意見ありましたら、お願いします。

では、こちらもこのような形で進めていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」という者多数）

○委員長（吉田敏郎）

はい、ありがとうございます。

次に、四つ目の枠の中の議場設備、大型映像設備に関して、全て削除ということになっておりますので、この辺、これでいきたいと思いますが、よろしくお願いします。

次の五つ目、議場設備の難聴者支援設備の中で、御意見のある方いらっしゃいますでしょうか。

こちらもこういう形で、進めていくということではよろしいでしょうか。

（「異議なし」という者多数）

○委員長（吉田敏郎）

はい、ありがとうございます。

続いて、全員協議会室の設備の中の音響設備のことで御意見のある方、いらっしゃいますでしょうか。

菊川委員、どうぞ。

○6番（菊川敬人）

既存のユニットを使うことで話を進めていたんですが、既存のユニットそのまま使えるということでオーケーなんですって。

○委員長（吉田敏郎）

今、使用しているマイク等、それが使用できるということ。あと収納倉庫も現在議場にあるものを使用するということ。

では、全協室はこれでよろしいでしょうか。

（「異議なし」という者多数）

○委員長（吉田敏郎）

ありがとうございます。

続きまして、同じ全協室なんですけれども、こちらの大型映像設備の中で、御意見ある方お願いします。

佐々木委員。

○1番（佐々木昇）

前回、ちょっと話が出たのかもしれませんが、電動昇降スクリーン、これはこっちのほうで見ると、映像設備、まとめて150万円になっているんですけど、この電動スクリーンがいくらぐらいということもありますけれども、特にこの電動スクリーンは私はいらないと思うのですけれども、今、普通に壁に映したりもできるようなところもありますし、電動、これは実際にいくらぐらいになるのか。

○委員長（吉田敏郎）

今、佐々木委員から、電動昇降スクリーンについて意見がありました。

現時点でこういうものを、今の時点で、例えば、この場で言いますと、後ろの黒板とか、移動式のスクリーンがありますけれども、それで対応できる。そういうことで対応していけば良いということで、対応するということがよろしいですね。電動昇降スクリーンというのは、前回、皆さんのお話の中では、あったほうが良いかなという意見でしたので、こちらはそうように載せてありますけど。それについて、改めて今、意見が出ましたけれども、いかがでしょう。これはあやふやなのですけれども、金額とすると、差があるのですけれども、電動の場合は、やっぱり30万円前後するのかなというのが。どういったものを使うのか分かりませんが。

○9番（井上三史）

機能はいろいろ後でも結論づけられる可能性は高いわけですが、スクリーンは必要かなと。やはりいろいろな会議をやったときに、映像で説明されると非常に分かりやすいので、あそこに映すことは何回もありますので、電動であるか、手でひっぱるか、は別にして。

○委員長（吉田敏郎）

今、佐々木委員と井上委員からいらないのではないかとということと、あったほうが良いということの両意見が出ました。改めて、こちらについて、御意見のある方。

○6番（菊川敬人）

使いますよね。電動かどうかということにしても、こうやってひっぱれば良いですから、あったほうが良いですね。

○委員長（吉田敏郎）

電動があったほうが。

○6番（菊川敬人）

電動でなくても、手動で動かせれば。

○委員長（吉田敏郎）

たしか、一番初めにやったときには、皆さんの意見の中で、やはりあったほうが良

いねという意見が、ただ、佐々木委員の場合は、電動昇降が必要なのかなということ
で今意見があったと思うのですけれども。

○1 番（佐々木昇）

今、壁に映すというようなスタンスとかで、そういうところがありますので。

○6 番（菊川敬人）

壁も相当フラットでないと。

○委員長（吉田敏郎）

山田委員、どうぞ。

○2 番（山田貴弘）

自分は、電動はいらないのかなというので、現況であるのを使えば良いと思うので
すよ。これはマイクも既存のものを再利用するということで。これは使えるのでしょ
う。今やっている機械は全部。

○書記（指宿卓哉）

今はほかの課に借りたりしているんですけど。

○2 番（山田貴弘）

だから、何かあったときには、会場にそれを持ち出したりとかもできるわけでしょ
う。例えば、報告会のときに持ち出したりとか。

○書記（指宿卓哉）

空いて、借りられれば、それはできます。

○2 番（山田貴弘）

今、現況のやつをそのままあれして、接続コンセントというのを設置しやすいよう
な形の配線機能を充実すれば、今のものをつければ間に合うのかなと。議場は事実上
いないということで、やめたわけじゃないですか。議場にはないのに、議場より全協
室のほうが立派だということとあれなので、電動はいらないけれども、最低限、これを使
うから手動でも良いんじゃないかな。恐らく、壊れたときに替えられるようなものに
しておいたほうが良いんじゃないかな。消耗品だと思うので、安いのが売っていると
思いますよ。これは150万円、すばっと消えるの、消えないの。音響があるからだ
めなやつと。

○委員長（吉田敏郎）

700万円が150万円に削減されたということ。たまたま私が学校なんかであれ
する場合には、そういうのはほとんど、もっと高いんですよ。普通の手動式のスクリ
ーンでも、やはり8万円から10万円ぐらいします。

下山委員、どうぞ。

○7 番（下山千津子）

電動でなくても、手動で十分可能であれば、そのほうが良いかなと思います。

○委員長（吉田敏郎）

スクリーンに関して、ほかによろしいですか。いずれにしろ、スクリーンは必要だ
よということで、皆さんの総意でよろしいでしょうか。

井上委員、スクリーンは必要という、電動ではなくても、ほかのものでできればということで、いろいろ皆さんのほうから意見が出ていますけれど、どうですか、よろしいですか。

○ 9 番（井上三史）

今まで出されたような意見、もっともな御意見ですので。

○委員長（吉田敏郎）

分かりました。ありがとうございます。

○ 6 番（菊川敬人）

もし少し余裕がある、とっても良いよということであれば、電動をやめても、プロジェクターそのものを今、あちこちから借りてもらっているわけですね。ですから、そんなに高いものではないですから、いくらもかからないんじゃないですか。

○ 10 番（星野洋一）

少し値段を出していただくとか、ちょっとその辺を調べていただいて、どのくらいなものがあるのか、出していただいたら、よろしいんじゃないですかね。

○委員長（吉田敏郎）

それでは、電動昇降スクリーンに関しては、電動ではなく、現在のものを使用する。また、手動式の新しいものということで、皆さんのほうでスクリーンに関しては御理解をいただきたいと思います。ありがとうございます。

ほかの部分に関しては、よろしいでしょうか。

今、菊川さんがおっしゃったプロジェクターに関しては、要するに全協室で、議会専用のプロジェクターがあったほうが良いねという、そういうことですよね。

○ 6 番（菊川敬人）

希望として。電動を削った分を振り分けることができれば。

○委員長（吉田敏郎）

今、後ろで柏木主幹が聞いていますから。

井上委員。

○ 9 番（井上三史）

議会報告会でもスクリーンが今後も考えられますので、プロジェクター、そんなに高いものではないです。ただ、ノートパソコンとプロジェクター、相性がありますので、やはり議会用のプロジェクターはそんなに高いものではないので、私もあったほうが良いのかなと。そのように思いますね。

○委員長（吉田敏郎）

分かりました。プロジェクターは、議会用の専用のプロジェクターを要望していくということでよろしいでしょうか。

山田委員、どうぞ。

○ 2 番（山田貴弘）

将来的にタブレット端末を機能として入れていくわけですね。だから、恐らくパワーポイントを使うのは少なくなってくると思うのです。タブレットでやっていく。

○ 9 番（井上三史）

議会報告会はやっぱり、スクリーンに映して町民の方々に映す場合も考えられるので、タブレットではちょっと映せなくなる。要するに、プロジェクターはあったほうが良い。

○ 2 番（山田貴弘）

新しいものは、壊れたら変えたって良いんじゃないですか。

○副委員長（前田せつよ）

スクリーンは今のものを使っていくということで、プロジェクターについては、新しいものは要望しないと。

○委員長（吉田敏郎）

今、いろいろ意見をいただきまして、スクリーンのほうは、一応必要とするということで、今のまま使うのを含めて、それから、プロジェクターは、これからタブレット等を使用するようになりますけれど、議会報告会等で非常に必要であるということも鑑みて、プロジェクターは一応議会から要望するということによろしいですね。（「異議なし」という者多数）

○委員長（吉田敏郎）

では、そういうことで。

ほかの全協室の映像関係に関して、ほかで御意見ございますか。

星野委員。

○ 1 0 番（星野洋一）

ブルーレイプレイヤーと 1 点ございますが、これは基本的にノートパソコンとか、何かの中に入っていて、それを映すことは可能なのですか。普通に今ついていますよね。

○委員長（吉田敏郎）

そうですね。

○ 1 0 番（星野洋一）

あえてまた別個に買う必要があるのかどうか。値段がそんなに高くないといえ、そうになってしまうのかもしれませんが、ちょっとその辺も。

○委員長（吉田敏郎）

議場設備では、ブルーレイは必要だということで、皆さんは理解していただいておりますけれども、今、星野委員から、全協室のブルーレイプレイヤーはどうなのかという、必要ないのではないかという意見が出ましたけれど、こちらに関していかがでしょう。たしか、この委員会の中で、言い方は失礼かもしれないけれども、そんなに高くはないからあっても良いんじゃないかという、そういう御意見が多くて、あっても良いよねということで話があったと思いますけれども。

○ 5 番（石田史行）

確か議場で、ブルーレイを残しておくために、こっちの全協室の、これは要するに DVD を入れて、映画を見たりとか、そのためのものだから、そんなに必要性は確か

に感じないのかなというところがありますけれども。大した金額、そんなに

○10番（星野洋一）

どちらかと言うと、ブルーレイプレイヤーと書いてあって、こちらはデジタルレコーダーになっているので、ちょっとその辺が若干違ってくるのかなという意見。全く趣が違いますよね。ちょっと重要性が違うかなと思って、感じたんですけれど。

○委員長（吉田敏郎）

今、星野、石田委員から、ブルーレイプレイヤーもいらないんじゃないかという意見が出ました。どうでしょう、皆さん。

○1番（佐々木昇）

よく分からないのですが、あれですか。このとじてあるやつの、映像設備というやつがあるけど、全てじゃない。ちょっと分からないのだけど。

○委員長（吉田敏郎）

あえてじゃない。

○1番（佐々木昇）

12ページの、ちょっと値段が出ているような。

○書記（指宿卓哉）

もしかしたら、電動昇降スクリーンを削除したら、ブルーレイプレイヤーもパソコンにつないで、プロジェクターで映せるので、もしかしたら、これも全部削除になるかもしれないですね。

○委員長（吉田敏郎）

では、これは後程、柏木主幹が後ろにいますので、そういうのを省いた中のあれをちょっと計算していただいて、考えていただくということでお願いをしたいという感じにしたいと思いますけれども。

皆さん、電動昇降スクリーン、そうすると、ブルーレイプレイヤー、これを今、指宿さんから説明がありましたから、そういう形で。

ほかに何かありますか。

それでは、ブルーレイプレイヤーも削除。

○2番（山田貴弘）

削除というよりも、音響との兼ね合いの中でなきゃいけないよというのがある場合があるわけだ。それは専門のほうで精査してもらって、システムのとときに必要だよというのであれば、それはいたし方がないと思いますよ。

今、パソコンとつなげれば、映像とすればCDなんかも写し出すことはできるので、そうすると、ブルーレイはいらなくなると思うので、そこら辺、事務局での判断というか、ちょっと精査してもらった中で、決めてもらう。ここで解決しないほうが良いんじゃないですか。もしかするといるかもしれない。機能として必要。やればないといけないし。ここまで音響ね。

○委員長（吉田敏郎）

今、山田委員からそういう意見が出ました。

ではそういう形で、お任せというわけではないですけれども、いろいろ精査をして
いただいて、良い方向に考えていただくということで、よろしいでしょうか。

(「異議なし」という者多数)

○委員長(吉田敏郎)

ありがとうございます。

山田委員。

○2番(山田貴弘)

1点、気になっているのが、前回のワイヤレスアンテナとワイヤレスマイクを削除
したじゃないですか。これは議場を含めてなのですけれども、先程、石田委員が言わ
れるように、マイクの部分で議論されたじゃないですか。2個を1個ずつ、距離が長
くなるとか。また、議長の考え方もある中で、例えば、車椅子の方が議場で座ったと
きにマイクが届くのかという問題もあると。ワイヤレス、1本ぐらい必要なのかなと
感じたんですよ。もし、1個ずつではなくて、2個にするのであれば。最悪、届かな
い場合は、ワイヤレスでしゃべってもらうとか。何か対応しないといけなのかなと感
じたんだけど。

また、全協室なんかでも、マイクはテーブルに固定されているけれども、誰かが、
例えば、司会進行をするよというときに、司会進行の人は立ってするじゃないですか。
そのときも座ってやるのかどうか、利用性があるなという感じ。1回いらないよと削
除になっているから、これはこれで、いらないならいらないで良いのだけれども。

○委員長(吉田敏郎)

今、山田委員から、ワイヤレスマイクに関して意見が出ました。削除という形で、
委員会の中では決めさせていただきましたけれども、今、また、そういう意見が出ま
したけれども。

○5番(石田史行)

後でつけるとか、そういう感じでは可能なのでは。

○委員長(吉田敏郎)

全協室なら今使っているやつが使えると、ワイヤレスではなくても、ちょっとコー
ドが伸びて、今、事務局長席はないのですけど、決算、予算の説明のときだけ、そこ
につないで、延ばしてやるというものもあるので、議場は。

○2番(山田貴弘)

だってマイク接続パネルというのがあるじゃない。これは端子が違うのか。

○書記(指宿卓哉)

全協室は、少なくとも大丈夫だと。

○2番(山田貴弘)

要は、差し口あれば良いわけでしょ。議場でそういう。差し口がとれる。

○書記(指宿卓哉)

だめだったら、ワイヤレスマイクで。

○2番(山田貴弘)

考えおかなきゃだめでしょ。

○委員長（吉田敏郎）

今、議場で使用するワイヤレスマイクに関しては、必要ではないかという、山田委員からの意見がありました。

何か御意見のある方、いらっしゃいますか。金額的にいうと、4、5万円あるかなというところだと思うのですけれど。

どうしましょう。議場の設備において、車椅子等々の方々に対応するためのワイヤレスマイク1本用意をしていく必要がある。

○5番（石田史行）

ワイヤレスではなくて、有線のやつを穴に差し使うということじゃないですか。ワイヤレスじゃなくて、有線マイクを予備で1本ということじゃないですか。

○2番（山田貴弘）

あるから、それを使えばいいわけでしょ。差し口があるかないかというので、差し口がなければワイヤレスにしようという感じだね。

○5番（石田史行）

ただ、アンテナをつけなくてはいけなくなるので、それは最初からつけていなくてはいけないのか、それとも後で必要性が出てきて、別途工事が可能かどうか。それもちょっと確認してもらいたい。

○6番（菊川敬人）

例えば、一つの提案なんですけれど、こういうやり方が良いのかどうか分からないですけれど、車椅子の方が議員になられたときには、前列の一番右側をそういう方用の席に指定する。その方が良いかどうかというのは、ちょっと別ですよ。そこにマイクだけを取りつけられるような、マイク接続パネルというのがありますので、そのマイクの差し込みだけをそこにセットしておいて、そういう方が来られたときには、そこにマイクだけを取りつけるという形にすれば、有線でそのままその席で使えると思うんですけどね。

○委員長（吉田敏郎）

菊川委員が今おっしゃっているのは、議場の傍聴席の向かって右側ですよ。今、車椅子が絵柄では入っていますけれど、その反対側の前列。

○6番（菊川敬人）

議席の一番を、そういう方専用、あるいは一番後ろでも良いんですけど、そこでマイクを取り付けられるような差し込み口を作っておくのも良いかなと。

○委員長（吉田敏郎）

今、山田委員、菊川委員から、そういう形で対応するマイクに関して、意見がありましたけれども、皆さんで、そういう形で町にはお願いしていくという形で、こちらの委員会として対応するということでよろしいでしょうか。どうでしょう、よろしいでしょうか、皆さん。

（「異議なし」という者多数）

○委員長（吉田敏郎）

では、そういう形で、ワイヤレスアンテナ、ワイヤレスマイクに関しては、削除ということではなく、委員会の意見として持ち込みます。

これで今、議場説明及び全員協議会室設備の開催見積資料の中で、順を追って全ての枠に関して皆さんから確認をしていただきました。ありがとうございます。

それでは、ここでちょっと休憩をさせてもらって、10分程、短いですが、25分から始めたいと思いますのでお願いします。

午前10時15分

○委員長（吉田敏郎）

それでは、再開をさせていただきます。

午前10時25分

○委員長（吉田敏郎）

はじめに、私から皆に御提案をさせていただきたいのですが、先程、議場設備の議場の中で、会議ユニットのマイク、一応、二人で1台ということで、皆さんでお話をしていただき、そのように決まったわけですが、ちょっと正・副で話をした中で、提案として、すみません。一度決まったことに対してあれなんですけれども、こちらの議員の席は皆さん御存知のとおり、いろいろフラットで可動式になっておりますので、一人一人席が可動して、動くようになっておりますので、そういうのを考えてみると、いろいろ多目的に使用する場合に考えて、こちらの席にも移動する場合もありますけれども、そういったことと考えると、1席にマイク1台あったほうが良いのかなと、確かに金額的に300万円の差があるのですが、ちょっとそういうことを決まった後に言うのもあれなんですけれども、皆さんにちょっと今、提案させていただきますけれども、いかがでしょうか。

○2番（山田貴弘）

可動式というのが意味分からないのですが。

○委員長（吉田敏郎）

席が動く。

○2番（山田貴弘）

いや、動かないでしょう。

○委員長（吉田敏郎）

動く。

○2番（山田貴弘）

だって向こうでは配線とか、そういうのはやらないってあれになったんですよね。もともとはだから、コンサートをやるときに、それを片づけてという話、それをいらなくなったんですよね。

○1番（佐々木昇）

今も可動式ですよ。

○2番（山田貴弘）

あれは可動式とは言わないですよ。ビスをとめて、配線をしているのは、可動式とは言わないです。キャスターか何かでついていて、こういういすみたいな、こういうのになれば、それを可動式というのでしょうか。これは可動式じゃないですよ。

○1 番（佐々木昇）

今と同じ状態ということですよ。

○2 番（山田貴弘）

でしょう、今と同じ。だから、可動ではないですよ。

○1 番（佐々木昇）

変えようと思えば、レイアウト変えられますよみたいな感覚ですよ。

○副委員長（前田せつよ）

1 台 1 台動かせる。

○2 番（山田貴弘）

つけたまま動かせるのは、どんなものだって動かせるのだけれど。

○5 番（石田史行）

そんな簡単に動かせるものではないですよ。今の。1 席に 1 台根拠としては弱い感じがするのですけれども。

○委員長（吉田敏郎）

すみません。また、今年の 1 1 月、1 2 月に、この委員会の中で、皆さんも御存知のように職員の席数、それから、職員の配置等は 8 月ぐらいにならないと、それが決定しないということも皆さん承知だと思うのですけれども、そういう職員とのバランスも考える必要もあるのかなと、後からで申しわけないのですけれども、そういうのも踏まえて、このマイク、そういう意味で、また、たればの話をして申しわけないのですけれども、例えば、議員数が増えたり、例えば、車椅子の議員の人が、これから、出てきた場合、そういうことでも、一人 1 台ずつにしたら対処がしやすいのかなということで、今、話をさせていただきました。

○5 番（石田史行）

執行部側との関係と言いましたけれども、執行部側も基本、今のあれは二人に 1 台ですかね。

○委員長（吉田敏郎）

まだ、それは決まっていないと思いますけれども。

○5 番（石田史行）

今、いただいた資料では、執行部席は二人 1 台になっていますよ。

○委員長（吉田敏郎）

まだ、図面は決定していない。

○2 番（山田貴弘）

この休憩時間に何があったのですか。話をしたと今言ったじゃないですか。その決め事をして、二人で一つのマイクでということで、それがあつた石田委員は、マイクの距離がというのと、じゃあ議長も含めた中で、障がい者用にワイヤレスも活用したほ

うが良いんじゃないかという議論をしたわけじゃないですか。それが短時間の10分の間に、休憩したら、こんなに話になるというのは、進め方に問題があるんじゃないですか。

やはり、それなりの根拠を示した中で、こういうメリットがあるからというのを言ってもらわないと、その話しをすること自体ちょっと違うと思うのですが。

○副委員長（前田せつよ）

すみません。ちょっと提案なんですけれど、町側のマイクの数決定が夏頃という情報を、しっかりと今の時点で、休憩時間に入りましたので、図面ではそういう表記があるけれども、行政側のマイク数はまだ決まっていないという現状がありますので、例えば、町側はデスク一つに対して、一人のマイクがあるという状況の中で、議会が二人に1台のマイクでやりとりという場面が、そういう想定もされるのではないかなというのが1点と。

あと先程委員長がおっしゃったように、可動式という言葉には、表現方法はちょっと違ったかもしれませんが、今後、フラットの議場を思う存分、いろいろな意味で使うというようなイメージを持ったときに、一人1台のマイクのほうが今後、いろいろできるのではないかと。

例えば、先程ちょっと話に出ましたが、一般質問の再質問は、例えば、二人1台のマイクだったら限定されちゃうというものがでてくるということもあると思うのですよ。例えば、行政によっては、自席で再質問をするというような、そのような動きをしている行政も多々あったりもするので、選択肢の部分にも影響があるので、私としては、今日結論づけをしないで、8月、今日の結論づけではなくて、今ここで意見を出して、結論をちょっと申しわけないですけど、行政のマイク数が云々とか、それから、先程議長がおっしゃったように、近隣の一般質問の再質問の場所であるとか、それから、議会のレイアウトの中で、一人1台のマイク設備をつけているほうがメリットがあるのか、デメリットがあるのかとかというものを、もうちょっと鑑みた形で、結論を先延ばしにしても良い内容ではないかなと考えます。

○2番（山田貴弘）

行政側の席というか、そこら辺は心配されているんですけど、それはそれで行政側のほうで、マイク一つ欲しいのか欲しくないのかというのを議論させれば良いのであって、我々には関係ないと思うのですよ。

我々の議席は、二人に一つにしましょうとしたわけだから、それは8月になろうが9月になろうが、それは行政側で回答をもらえば良いと判断したいと。いかがでしょうか。

○副委員長（前田せつよ）

その意見は例えば、行政側は行政、議会は議会ということで、その意見は例えば、それは今の説明に当たらないというのであれば、それを取り下げるとして、では、再質問の場所を自席ではもうしないというようなシチュエーションに、同時になっていくのかなという可能性は大だと思うのですよね。そのことが1点。

あと、今後、20年、30年というか、その先の議会の形態ですとか、我々の後に続く、議員のありようですとか、いろいろ考えたときに、二人1本のマイクで良いのかどうなのかというのも、最近、議場を市役所とか、庁舎とかを建てられている近隣の状況のデータをとるということは、やはり必要なのかなと考えます。

再質問の場所についてのことも結論づけるというものの中で、範疇が狭くなっちゃうんじゃないかなという。

私としては、もし、二人で1台のマイク設備であるのであれば、自席での再質問、一般質問のやりとりをする場所には、似つかわしくないと、先走った感じですけど、そういうイメージになるのかなと考えました。

○2番（山田貴弘）

要は今の理論上でいくと、2席のやつ、真ん中にマイクがあって、二人で一つの使うとなると、再質問は要はできないという形態ですか。

○副委員長（前田せつよ）

一般質問の中の再質問だと、やりにくくなっちゃうんじゃないかなと。

○2番（山田貴弘）

それがもっともであれば、ああ、なるほどというので理解するので。

要はもともとは1個ずつでも良いんですよ。ただ、相対の費用を削減するのにはどうしたら良いかという観点で皆様考えて、では、策として、2台を1台にしましょうということで結論ついたわけではないですか。だから、自分も、良いんじゃないの、それでと理解をしたので、別にどっちだって良いんですけど。意味が、二つを一つにすると、再質問ができないというのは議論上、なんでなのかなという。

○9番（井上三史）

私も、山田議員と同じ気持ちなんです。さっき、今まで我々議論していたじゃないですか。それで休憩の間に、また再び、違うというのを出してきて、要する決まったことの蒸し返しになるんですよ。

なぜ、我々が話し合っているときに、そういうのを出さないのかということになるわけです。

○副委員長（前田せつよ）

すみません。1テーブルで動きができるということを忘れていたということが一番です。一つの席のワンセットで、いろいろなところに動かして、レイアウトが変わっていくというのが、忘れていたということが一番の原因です。

○9番（井上三史）

話し合いの基本的なルールといたしまして、一度決めたことを蒸し返すということとは、極力避けなければいけないわけですよ。だから先程、山田議員が決まったことに對して、別の意見を出してきたときには、その根拠は何ですかと、きちんと明確に聞いているわけですよ。私はそれを聞いていても、説得力ないんですよ。

○副委員長（前田せつよ）

分かりました。私としては根拠に値すると思ったので、ワンセットで動かせるとい

うことが一番の部分であると。

あと先程、山田議員がそれは理由にならないんじゃないかなと言われましたけれど、行政側が1席で一つという部分で、例えば、8月頃に結論づけたときにも、やはり議場の全体像のレイアウトからすると、一人1台というのもありなのかなというのが、二つの理由。

あとは三つ目として近隣のこととか、あと、これから何十年も使うということを考えたときに、一人1台のほうが、好ましいのではないかなと感じましたので。

ただ、皆さんの中で、一度決めたことであるということと。それから、それは理由に値しないという結論であれば、それは撤回をいたします。もし、それであれば、いや、そんなこと、委員長、副委員長で言うけど、それは一度決めたことだから、それは説得力ないよ。変える必要に値する内容じゃないから、さっきの結論をそのまま尊重して、委員会を始めてくれよというのであれば、私はそれに対しては何ら。

○9番（井上三史）

私はそうしていただきたいと思います。第一、我々の意思でもって、決めたことです。近隣のほうが大事なんですか。

○副委員長（前田せつよ）

ですから、それで良いですと言いましたので、それ以上のあれは、お願いします。

○9番（井上三史）

理解していただければ。

○副委員長（前田せつよ）

皆さんが、いや、もう副委員長、そんなこと言ってもというのであれば撤回いたします。

○2番（山田貴弘）

一番ちょっと大事なところなんですけれども、先程から可動式というものをこだわっている。

○副委員長（前田せつよ）

一つのことを動かせる。

○2番（山田貴弘）

その再確認なんですけれども、そういう議場にするのはですか。

○副委員長（前田せつよ）

動かせるというか。

○2番（山田貴弘）

固定されているものは固定になるので、だけど、このテーブルは早い話、固定されていないから、可動式としての捉え方は良いのですけれども。

○副委員長（前田せつよ）

表現の仕方はちょっと違うのかもしれませんがけれども。

○2番（山田貴弘）

だから、その接点が合わないと。

○委員長（吉田敏郎）

湯川委員。

○3番（湯川洋治）

テーブルのセットがあるじゃないですか。さっき井上委員が言われた、二人での席だったならば、1本で良いんだよと、最初、ここで言われたんですよね。こっちは絵は、3人のセットになっているじゃないですか。菊川委員が作られたこのセットは、2セットになっている。そういうのは簡単に、今日は2、明日は3にできるの。可動式というのだからね。今日は二人の席にしましょう、では、明日は3人にしちゃえよ、4人にすれば良いじゃん、そんな簡単にできるの。できないでしょう。だから、菊川委員が書かれた、この椅子の設置が一番ベターだと思う。そうすれば、二人で1本のマイクで可能だと。こっちだと、3人の席になっているから、非常に難しい考え方になる。この説明はまだ、全然されていないからあれですけど。

○委員長（吉田敏郎）

菊川委員。

○6番（菊川敬人）

いろいろな話を聞いていますと、基本はずれてきちやていうか、列がきちんと決まっていなくて、決まらないですね。議場を多目的に使うという話もあったわけなんですけれども、基本的には議場として固定した形で使うわけですから、まず、議員が増えた場合のという話もありますし、執行部側が何人か決まらないということもあるわけなんですけれども、現状において、こういう形で進めるということをまず、原則をきちんと決めて、今は12人ですから、12人で、3人掛けにするのか、2人掛けにするのかというところを決めていかないと、なかなかそういうものも決まっていけないと思うんですけどね。

私が提案させていただいたのは、二人掛けというのは、話があったので、絵がないと、なかなか分からないということから、一つ、参考のために出させていただいたことがありますけれども、まず、その辺を決めていただいて、それで進まないといふ3回ぐらい同じことを続けてやっても決まらないので、もう少し、1回決めるような形で、みんなで協力しながらやりたいなと思いますので。

○委員長（吉田敏郎）

今、私から申しあげましたけれども、二人にマイク1台、一人1台にという話をしましたけれども、皆さんの意見の中で、やはり一度決めたものをどうこうというのも、もちろんそのとおりでありますし、今、私のほうから、委員長として言いましたけれども、そちらのほうは、一応この時点で話は撤回させていただきますので、よろしくお願ひしたいと思います。

大変貴重なお時間を申しわけありませんでした。よろしくお願ひしたいと思います。

それで今、菊川委員から話が出ましたけれども、皆さんに2枚のA4の紙で、議場の議席の2列、3列の図を菊川さんから提供していただきました。こちらで、一応12人の形の中で、2人席の2列と3列という形で、このように提供してくれました。

今までもいろいろ、この席に関しては行政からも図を示してもらったりも、こちらから要望してありますけれども、こちらで皆さんから御意見をいただいて進めていきたいと思います。

○6番（菊川敬人）

その前にちょっと説明させてください。

2枚ありますけれど、よく見ていただければ、一つは、議員側の席が2列のものと3列のものが変わってまして、もう一つは、執行部側は、人数を3人減らしたものと、現状の席数と二つ書いてあります。これは一つは、減らしたという意味なのですから、部長の中で来年になれば退職される方がいるので、その方を除いて勝手に減らしちゃったということも。

今の人数ですとか、傍聴席の仕切りから、50センチぐらいしか執行部側の机が離れていないのです。もう、すぐ横に机がきていますので、手元を含めて見られるような形で議事を進めるような形になっている。これはちょっとよろしくないかなと思ひまして、議会側から減らしてくださいという言い方もできるんじゃないかなと思ひまして。

それからもう一つ、本当に基本的なところで、我々のデスクは、幅いくつなんですかというのは、前に話がありまして、1, 250ということだったのですが、この絵では、測ってみますと、基本的には、議員の席は1, 100になっています。幅が1, 100の、奥行きが720という机です。執行部側が900になっています。あとは見た目でお分かりになると思いますが、こんな感じになろうかなと思ひます。参考まで出させていただきました。

○委員長（吉田敏郎）

ありがとうございました。

今、菊川委員から提示されたことに対して説明をいただきました。こちらで、皆さんから菊川委員が提供していただいた、この席並びに配置図に関して御意見をいただきたいと思ひますのでお願いをいたします。

山田委員。

○2番（山田貴弘）

そもそも論で、この図面で、前から要求していたわけじゃないですか。菊川委員に、手間かけてもらって、こうやってもらって、大変ありがたいなという。見やすく、分かりやすいというのですけれども、行政側がこれを出してくれと言っても、出なかった理由というのは何なんですか。伝わっていなかったんですか。

○委員長（吉田敏郎）

今、山田委員がおっしゃったのは、行政側がこの図面を、いろいろ議員数が増えた場合、それと2列、3列、そういうのは行政側からの示しはあったと思ひますけれども、我々が質問したときに対して、図面はいくつかいただいていると思ひます。

○2番（山田貴弘）

なぜ気にするかというと、2枚目の部分、行政側を削っていない部分というのは、

そのままだから、分かるんですけど、上という部分は削っているわけじゃないですか。これは職員が議場に入る数に制限されてくるところについて、行政がどのように思っているのかなというところを探りたくて聞いたんですよ。

だから、ある意味、職員側は置いておいても、これは行政側に決めておいてもらって、議員席を、二人を3列にするのか、2を2列にするのかというので、決めたほうが良い。行政が入っちゃうと、ちょっと蒸し返しになっちゃう。それで行政の意見を聞いてもらって、やはり今の人数をキープしたいとなれば、黙って決まると思うので、それから、傍聴席から近かろうが、遠かろうが、我々とはちょっと違うので、我々だけの議席を決めたらどうなのかなと提案したい。

○委員長（吉田敏郎）

ありがとうございます。

今、山田委員から、そういう提案がありました。菊川委員の提示してもらった図面に対しての提案ですけども、そういう形で進めていきたいと思っておりますけれどもよろしいでしょうか。

（「異議なし」という者多数）

○委員長（吉田敏郎）

それでは、議員席に関してだけでお願いします。

二人席ですけども、3列と2列、こちらに関して、皆さんからこういうわけで、こういうのが良い、こちらが良いというような意見をひとつお願いしたいと思えます。星野委員。

○10番（星野洋一）

先程、菊川委員もおっしゃっていたように、あまりにもちょっと傍聴席に近いと、上から見られるとき、ちょっと雰囲気がありますので、だったら、スペースを空けるためには、2列にしてやったほうがよろしいかなというふうに、私は感じます。最初のページと同じですよ、イラストとしては。ごめんなさい。後2列とかという意味で。

○委員長（吉田敏郎）

2枚目のほうですよ。

○10番（星野洋一）

いやいや。こっちより、こっちが列が変わっちゃうので。1ページ目の感じで。

○委員長（吉田敏郎）

1ページ目のほうね。分かりました。

石田委員、どうぞ。

○5番（石田史行）

私は、2列のものが良いのかなと。

○委員長（吉田敏郎）

2ページ目の2列ですね。

○5番（石田史行）

2 ページ目の 2 列。理由としては、3 列になっちゃうと、執行部側の席と近くなるので、この 2 列パターン、一定程度の距離感があったほうが良いのかなというところですよ。

○ 3 番（湯川洋治）

今、石田委員の言われたことは、とってもごもっともだと思いますよ。一番前に町長と副町長がいて、要するに、目の前だとすごくやりにくいところがあるんですよ。やはり離してもらったほうが、あそこに座ったら、嫌になっちゃうぐらい、思います。

○ 委員長（吉田敏郎）

ありがとうございます。

下山委員、どうぞ。

○ 7 番（下山千津子）

私も今の湯川議員の意見に同感で、やっぱり一番前の議席にいますと、行政サイドの声が聞こえたり、頭を上げると目前にお見合いをしているような感じになりますので、やっぱり 2 番目の 2 ページ目のほうが良いかなと私も感じます。

○ 委員長（吉田敏郎）

湯川委員。

○ 3 番（湯川洋治）

私、2 枚あるんですけど、菊川委員に申しわけないですけど、もう一枚つくっていただきたかったですね。2 ページ目を参考にして、1 ページ目の、要するに行政側の席の数を減らしたようなものもつくっていただくと、本当にさっき言われたように、我々は良いんですけど、行政側のほうは手元が本当に見えちゃうというのは、この距離だとまずい。必要かなと思いますね。

○ 1 番（佐々木昇）

ちょっと聞ききたいのですが、この真ん中の演壇、これを例えば一つにするとか、行政側と議員側のやつをくっつけてしまうと、そういうことというのは、なかなか難しいのですか。

○ 委員長（吉田敏郎）

たしか何回目かのときにそういう意見が出て、一つでも良いんじゃないのという、そういう話も出たことがありますね。要するに、この演壇を一つにするということですよね。

○ 1 番（佐々木昇）

あとこれは今、間が 2 メートルぐらいですか。

○ 委員長（吉田敏郎）

2 列の場合はね。

○ 1 番（佐々木昇）

この辺の距離感というのが、何かもったいないかなと感じたりするのですが、その辺であれですね。

○ 6 番（菊川敬人）

今の議場、あれ 1 回下げたのですよ。もう 1 段前だった。これはどうにでもなる。近かろうが、遠かろうが。

○委員長（吉田敏郎）

佐々木委員は、今、演壇はそれを踏まえて、列はどっちだっけ。

○ 1 番（佐々木昇）

あれなんですけれど、そうすると 1 枚目のほうでも、スペース的にどうなのかなみたいな。

○委員長（吉田敏郎）

3 列ね。一つにすればということ。

○ 1 番（佐々木昇）

真ん中のスペースもったいないと思っているのは私だけですかね。議長からも何かあるのですか、ここ。

○議長（茅沼隆文）

多分に、ここはさっき前田副委員長がおっしゃったように、議員側は一般質問するための席でもあるわけ。なので、行政側とくっつけちゃうと、議員がどこに座ったら良いかという問題があるから、くっつけちゃうということは、一般質問は自席で再質問するということとイコールになってしまうので、それで良いのかどうかという議論にも。

○委員長（吉田敏郎）

ほかに御意見ございませんか。

○ 6 番（菊川敬人）

浦幌町は一般質問席はなかったですかね。

○委員長（吉田敏郎）

一つですよ、確か。違ったっけ。自席でやると言っていましたよね。違った。議席でやる。

○ 2 番（山田貴弘）

正直なところ、基本的にどっちだって良いと思っているんですよ。ただ、これはインターネット中継を今後やっていった場合、カメラ位置を考えると、1 枚目のパターンが良いのかなという。要はそのために、仮に一般質問を続行したレイアウトにしていったときに、要は真ん中の座っている議員が常にモニターに映っている状態になると思うんですよ。そうすると、居眠りをこいていた、そういうのがくるとなると、1 枚目のパターンだったら、どちらかという、通路の部分が映って、真ん中の、わきの部分がたまに映っても、遠近のあれで、さほど目立たないのかなと感ずるので、映像を考えると 1 枚目なのかなという。どっちだって良いんですけど、絵的な部分でいうとそっちかなというふうに感じましたね。演台そのものは、バックすることができると思うので、位置関係は、どうにでもなるのかなというふうに思っているんですよ。

あと建物の中心に、用は議長席がうちの事務局とで中心になったわけじゃないです

か。今、中心割の中で、割り振っているので、傍聴席から見たときも、どっちかという
うと、バランスが良いのかなという感じはしています。特に気になるのは映像の部分。

○委員長（吉田敏郎）

ほかの委員の方、御意見は良いですか。

○1 番（佐々木昇）

本当に細かいことで本当に申しわけない。別にけちをつけるわけじゃないんですけど、私もすっきりして、2 枚目のほうが良いのかなと思うのですが、フラットの議場中で、真ん中の人がこの演壇が邪魔とかにならないのかなという、そんな心配も。

○副委員長（前田せつよ）

2 枚目だと、真ん中の 4 人の方が、演壇が司会に入って視界に入っちゃうので。

○5 番（石田史行）

真ん中の人が多少映っちゃうというのは、それは映像を映すときに、できるだけや
っている人にフォーカスを充てて、できるだけ映らないようにするとか、それは多少
可能なんじゃない。だけどもある程度、ズームとか、うまくできるんじゃないのかな。

○書記（指宿卓哉）

後ろは映らないかなって思うように思います。

○委員長（吉田敏郎）

今、山田委員はどっちでも良いよという意見も聞いているんですけど、一応今 2
列が 3 人の方、3 列が山田さんのどっちでも良いよを含めて 3 人という。今、そうい
う御意見をいただいています。

それでは、意見も出尽くしたのかなということで理解してよろしいでしょうか。こ
の列。ほかの方の御意見は。

井上委員。

○9 番（井上三史）

湯川委員がすごく気にしている、余りに前に近いよということだけど、現状よりも、
今回のほうが距離的に離れるんですよ。1 枚目の、そこちょっと確認してください。

○6 番（菊川敬人）

4 メートルぐらいですから、今よりはちょっと離れる。

○9 番（井上三史）

離れますよね。だから、1 枚目のものでも、湯川委員がすごく気にしている距離よ
りは離れた状態が 1 枚目で可能ですね。

○委員長（吉田敏郎）

そうですね、4 メートルぐらいありますよね。

○9 番（井上三史）

現在、どのくらいの距離なんですか。

○委員長（吉田敏郎）

3 メートルはあるよね。

○ 9 番（井上三史）

1 枚目の配置であつただとしても、1 メートルは 3 位に入られるということ。

○ 3 番（湯川洋治）

今度、副町長がいなくなっちゃったので、ごそごそはなくなったのですけれども、その人によってね。

○委員長（吉田敏郎）

井上さんは、1 枚目の 3 列で。

○ 9 番（井上三史）

私としては、1 枚目を推したいなと思ったんだけど、この距離が、同じくらいの 3 メートルならば、湯川委員の気持ちも尊重したかったのもので、そこで確認させてください。

○委員長（吉田敏郎）

ここで皆さんから挙手をとって、決をとってよろしいですか。

では、菊川委員が示されたこの議場の 1 枚目が 3 列、そして、2 枚目のほうが 2 列ということです。

それで、それでは、1 枚目のほうが良いという人の挙手を求めます。

（挙 手）

○委員長（吉田敏郎）

それでは、2 枚目がよしと思う方の挙手をお願いします。

（挙 手）

○委員長（吉田敏郎）

そうしますと、1 枚目の 3 列案が多数決でいくと、多いです。では、こちらの議員席のほうは、3 列という形で委員会としては決めたいと思いますけれども、よろしくお願ひしたいと思います。

ありがとうございました。菊川委員もありがとうございました。

時間も大分押してきたのですけれど、この後、分科会、それから、議運等がありますので、本日の委員会はこちらで。

○ 2 番（山田貴弘）

これちょっと聞きたいんですけど、傍聴席は増やせないの。この傍聴席はこれがマックス。何か増やせそうな感じがするのだけど。

○書記（指宿卓哉）

そのレイアウトは、そうですね。聞いたことはないの、答えられないのですけれど。

○ 2 番（山田貴弘）

今より増えるんだっけ。今、いくつだっけ。

○書記（指宿卓哉）

今は 24 か、5。

○委員長（吉田敏郎）

同じだね、24。

○2番（山田貴弘）

見に来る人、増えると思うんだよな。

○書記（指宿卓哉）

一応あれですね。議会の傍聴規則には、傍聴人の定員は25人とするというのがある。

○2番（山田貴弘）

それは変えれば良いわけでしょう。

○書記（指宿卓哉）

変えるのがまず前提で、数を増やす。

○2番（山田貴弘）

増やしたほうが良いんじゃないかなという感じはするんだけど。

これはテーブルがあるのは記者席なんでしょう、違うの。可能な限り1席でも、2席でも増やしたほうが良い。

○委員長（吉田敏郎）

それは行政側にちょっと確認します。

それでは、本日、皆さんのほうで一応、議場設備と全協の設備、それから、こちらの議会の議席の配置等々決めていただきました。ありがとうございます。

一応今日、予定していたことは、これで一応終わりたいと思いますけれども、その他で何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

（「なし」という者多数）

○委員長（吉田敏郎）

ありがとうございます。

次に、次回に関しては、一応今日、皆さんから出ました今のことも含めまして、確認することをした後に、皆さんに次回の開催をメールで送らせてもらいますけれども、よろしいでしょうか。今、それともすぐに皆さんのほうにいつがよろしいでしょうかというのをメール配信しますので、そういう形で今日はお願いしたいと思うのですが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」という者多数）

○委員長（吉田敏郎）

それでは、今日の新庁舎に関する調査特別委員会はこれで終了とさせていただきます。本当にありがとうございました。

午前11時07分 散会